

令和3年7月20日(火)

生徒の皆さん、おはようございます。校長の野澤です。このところ夏らしい晴天が続き、多くの生徒が暑さに慣れていないことを考え、直前で教室での終業式に切り替えました。つい先日までの大雨がもとで、痛ましい災害に見舞われた地域の皆様には、心からお見舞いを申し上げます。

さて、時間にゆとりの持てる明日からの夏休みに、本を読みましようとはよく言われることです。皆さんは夏目漱石作の「坊ちゃん」をお読みになったことはありますか。現代で言えば大学に相当する学校を卒業して間もなく、主人公の「坊ちゃん」は四国の中学、これも今の高校にあたる学校ですが、そこで数学の教師となります。あるとき、一部の生徒が悪質な行為に及ぶのですが、それを問い詰める坊ちゃんに対して、しらを切り、口答えをするなど、指導を素直に受けようとしません。その時の坊ちゃんの心の声が表現された部分を、一部引用して読み上げますので聞いてください。

けちな奴らだ、自分で自分のした事がいえない位なら、てんで仕(し)ないがいい。証拠さえ挙がらなければ、しらを切るつもりで図太く構えていやがる。おれだって中学にいた時分は少しはいたずらもしたもんだ。しかしだれがしたと聞かれた時に、尻込みするような卑怯な事はただの一度もなかった。仕たものは仕たので、仕ないものは仕ないに極ってる。おれなんぞは、いくら、いたずらをしたって潔白なものだ。嘘を吐(つ)いて罰を逃げる位なら、始めからいたずらなんかやるものか。いたずらと罰はつきもんだ。罰があるからいたずらも心持ちよく出来る。いたずらだけで罰は御免蒙(こうむ)るなんて下劣な根性がどこの国に流行ると思ってるんだ。金は借りるが、返す事は御免だという連中はみんな、こんな奴らが卒業してやる仕事に相違ない。全体中学校へ何しに這入ってるんだ。学校へ這入って、嘘を吐いて、胡魔化して、陰でこせこせ生意気な悪いいたずらをして、そうして大きな面で卒業すれば教育を受けたもんだと癪違いをしていやがる。話せない雑兵だ。

(用字含め原文のまま)

いかに漱石の時代といえども、生徒にこれほど激しい言葉で感情をぶつけ、その未来を呪えば、大きな問題になったでしょう。さすがに主人公は「そんなにいわれなきゃ、聞かなくっていい。中学校へ這入って、上品も下品も区別が出来ないのは気の毒なものだ。」と、心の中にある道義的な怒りは隠して、冷静な発言で指導を中断します。しかし、正当な指導に従えないのは品性の問題であると、かなり厳しく言っているように思えますが、どのような感想をお持ちになりましたか。そして、この1学期、貴方自身を振り返り、先生方の指導に対して誠実でありましたか。

新型コロナウイルス感染症の拡大が心配されます。長い夏休みですが、どうか油断することなく、感染防止の注意を誠実に守って生活するよう心掛けてください。2学期の始業日には、元気な姿でお目に掛かりましょう。終わります。